

研修名	ひきこもり支援者研修会 「ひきこもり支援再考」
講師	福岡県立大学大学院 准教授 四戸 智昭 氏
開催日時	令和2年12月11日（月）18：30～20：30
開催場所	北九州市総合保健福祉センター（アシスト21） 2階講堂
参加者数	34名 （内訳：行政機関、教育関係機関、相談支援機関、サービス事業所職員など）
研修の内容等	<p>ひきこもり支援に携わる方や関心のある方を対象に、知識や支援手法に関して学ぶ場を提供し、支援者の意識やモチベーションの向上を図り、ひきこもり状態にある人やその家族に対する支援の充実を目指すため、研修会を開催した。</p> <p>講義形式で行われ、当事者の就労が目標ではなく、困っている家族（キーパーソン）支援の重要性、当事者や家族のあるがまを承認していくことの大切さについて学ぶ機会となった。</p> 
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の支援が大切と改めて感じた。 ・当事者の支援が必要だと思っていたが、家族を支援することや家族の中で誰が困っているか、“ひきこもりが必要な家族の状態”だったりする…など、目からウロコだった。 ・家族全体を見て、誰が困っているのか振り返る時間を持つと思った。 ・困っている人がキーパーソンであるという視点に気づけて良かった。 ・“あるがまを承認”することにとっても納得した。支援者側の自分にバイアスがかかっていることを感じた。 ・ひきこもりの概念が少し変わった。“ないものを探すのではなく、あるものに目をむける”という言葉をおぼろげにしたい。 ・“いいじゃない、生きているんだから”と承認する大切さを実感した。 ・家族を認める言動を多く発言したいと思った。 ・今までできていたことができなくなった本人を元の状態にすることを考えてばかりだったが、話を聞いて気持ちが楽になった。 ・ケースを交えながらの講義でわかりやすかった。